

記録
フィルム
カラー／37分
日・英語版

- 企画
文化庁
- 協力
東京国立近代美術館
石川県立美術館
サントリー美術館

スタッフ

- 製作
山本孝行
- 脚本・演出
土井康一
- 脚本協力
村山正実
- 演出助手
細矢知里
- 撮影
山屋恵司
藤原千史
今野聖輝
- 照明
佐藤大和
野本敏郎
- 録音
荒井富保
- 効果
帆苅幸雄
- 編集
石井香奈江
- ネガ編集
幸知甫之
- タイトル
津田輝王
関口里織
- タイミング
郷田真理子
- 音楽
佃 良次郎
- 録音スタジオ
アオイスタジオ
- 現像
IMAGICAウェスト
- ナレーター
斉藤とも子

文部科学省特選 2018年教育映像祭優秀作品賞 映文連アワード
2018ソーシャル・コミュニケーション部門優秀賞
2018年キネマ旬報文化映画ベスト・テン第8位

中野孝一（なかのこういち）は、2010年（平成22年）、重要無形文化財「蒔絵（まきえ）」の保持者（人間国宝）に認定された。映画は、高度な蒔絵技法である「肉合研出蒔絵（ししあいとぎだしまきえ）」を用いた作品づくりを追いかけ、中野のわざと人となりを描いた。



漆で描いた下絵に、金粉や銀粉を蒔いて、文様を示す蒔絵（まきえ）は、1200年以上の歴史を持つ日本の伝統的な工芸品である。

中野孝一は、石川県に生まれ、蒔絵を中心とする伝統的な漆芸技法を幅広く修得した。「漆の仕事とは、目に見えないところに神経を注いでいくこと」と語る中野は、土台となる下地づくりから、塗り、加飾（かしょく）まで自ら手掛ける。

映画は、数ある蒔絵技法の中で、下絵（したえ）、下塗り、中塗りを経て、高上げ（たかあげ）や粉蒔き（ふんまき）など、最も多くの工程を有する肉合研出蒔絵を用いた『栗鼠に葡萄文蒔絵箱（りすにぶどうもんまきえはこ）』が完成するまでを克明に記録した。